

著者序文 1

I 経済システム論と一般均衡論 5

歴史が課した新しい課題 5

経済システム論の対象 9

一般均衡論批判の歴史における一般均衡論の地位 13

諸仮説——モデルの批判 19

均衡と「不均衡」 27

一般均衡論を超えて 28

参考文献 30

II 市場における圧力と吸引 33

諸概念の明瞭化 35

圧力と吸引の効果 41

吸引の創出要因 49

圧力の創出要因 55

吸引から圧力への移行 60

科学研究の課題 62

参考文献 66

III ノルムによる制御 67

一般的定義 67

ノルムの形成 71

安定化と保守化 76

ノルムによる制御と最適化 80

その他の行動型式 84

参考文献 86

IV 不足の測定 89

買い手の側における代替の諸制約 90

売り手の側における代替の諸制約 93

直接的不足と強制代替 97

強制代替・探索努力・待機の関係 99

VI 社会主義における「不足」の再生産

ミクロ経済学的な分析 149

マクロ経済学的な分析 159

経済政策上の意味合い 171

参考文献 174

V 「ハードな」予算制約と「ソフトな」予算制約 123

導入的事例 123

財務バランスと予算制約の関係 125

ハードな予算制約・純粋なケース 127

ほとんどハードな予算制約 131

ソフトな予算制約・純粋なケース 133

基礎事象と一般行動 137

資本主義経済と社会主義経済についての仮説 138

予算制約と利潤関心 143

参考文献 144

VII 効率性と社会主義倫理 175

二種類の価値体系 175

利潤に結びついたインセンティブ 179

企業の存続 183

企業の成長 185

若干の結論 189

参考文献 193

編訳者あとがき 195